

『高校クラス担任の基本とQ & A』をご購入いただきありがとうございます。

このデータは、ページの都合で本書に載せきれなかった回答を紹介するためのものです。

本書の回答が自分には合わなかったり、もっと様々な意見や考えが知りたかったりする場合に参考にしてみてください。

- ・事例(悩み)の内容は省略しています。お手元の本をご覧ください。
- ・ダウンロードデータでは、回答者の元の表記をなるべくそのまま載せています。

第2章

生徒指導の悩み

【事例 21】

★ゴールデンウィークで生活のペースが乱れてしまい、4月からの不慣れな高校生活の疲れも重なって、学校に来る意欲が低下する、という生徒は少なくありません。一昔前に言われた「五月病」でしょうか。特に、中学時代に不登校経験のある生徒なら、何日間も休み続けることに本人も保護者もさほどの抵抗感ありませんし、そもそも、そんな中学生時代であつても高校受験は乗り越えてきた、という自負もあるはずです。高校卒業後は、どんな未来図を描いているのでしょうか。また、保護者は、その生徒にどんな大人になって、どんな暮らしをして欲しいと思っているのでしょうか？そのその辺りから、話を聞けると良いですね。

★担任にも何とかできることとできないことがあります。生徒の中には、受験時の成績などで急に志望校を変更したりして不本意に入学する生徒が一定数います。入学後に気持ちを切り替えて学校生活を楽しんでくれる生徒がいますが、もやもやを消化しきれずに転学などの選択肢を選ぶ生徒もいます。学校に登校することが、その生徒にとってよいことがどうかで判断するようにしましょう。本人、ご家族の気持ちや思いを確認しましょう。

★生徒の真意を確認してください。中学時代の経験を聞いてください。中学時代は、なぜ学校に行かなくなったのか。また、登校を開始したのはなぜか、聞いてください。生徒の気持ちの変化について理解できれば、解決の糸口が見つかるかもしれません。どんなに小さなことでも、生徒自身にとって、重要な要因である場合があります。まずは、生徒の気持ちをしっかり聞いて受け止めて、この先、どう解決するのか考えます。

【事例 22】

★特別な支援を必要とする生徒である可能性があります。すぐに状況を養護教諭や特別支援教育コーディネーターの先生に相談しましょう。また、周囲に笑われることについて本人がどう感じているのかも早めに確認します。本人が苦しい思いをしているのであれば、対応策を練らなければなりません。いずれにせよ、1人で判断するのは難しいと思いますので、周囲の先生方の助けを借りながら動くようにしてください。

★物忘れが他の生徒よりもちょっと頻繁なようですね。これまでの小学校、中学校時代も、物忘れが原因で困ってきたことはあったはずです。じっくり話を聞いてください。そして、本人がどうなりたいと考えているのかを宣言させた上で、一緒に、対策を考えてみましょう。回りの生徒も笑っている場合ではありません。彼らのちょっとした声かけが有効かもしれません。どんな時に特に忘れがちなのかという傾向が掴めれば、対策も取りやすいでしょう。まだ、1年生なら今後の成長が楽しみです。

★次から次へと興味に移り変わり注意力が乏しいか注意の時間が短い傾向を持つ生徒がいます。重度な時にはADHD（注意欠如・多動症）という診断が下る場合があります。この時点では、忘れ物をしないときの状況やその工夫を本人から聞いて忘れ物をしないために「毎回持ってきたものをその場で確認する」など意識づけを行います。少なからず保護者の方も困っていると思うのでこれまでの状況を聞いてみると参考になるかもしれません。

★保護者とその件については相談し、注意欠陥の傾向がある生徒である場合は、大事な事について、メモを取らせる習慣をつけるべきです。生徒本人にメモ帳を持たせてメモを取る作業をさせてみてください。それだけでも忘れ物を防止する効果はある程度はあると思います。

【事例 23】

★お気持ちお察しいたします、最前面に出るのは担任ばかり、生徒とぶつかるのも担任ばかりですね。まず注意することからはじまるため、人間関係は悪くなるばかり、その場の雰囲気も悪くなりますし…辛くてそのクラスの授業に行くのが憂鬱にもなります。そんな時はあなたの気持ちをリフレーミング、注意をするのではなく、注意をしてあげましょう。私はあなたを「見過ごさない」「無視しない」というメッセージを送り続けているのです。その生徒は、他に自己主張する手立てを持ち合わせていないのです。そして、それでも自分がそこにいることを主張せずにはいられないのです。あなた自身が感情的になったり、ご自身の怒りにのみ込まれてしまうと、後味が悪くなります。生徒と、教師は対等ではありません。私たちが教師であることは、仕事であり、給料をもらっています。

★学校の校則の指導に対する指導観は教員によって異なるので困惑することも多いですね。あなたはその場で改善させる指導を丁寧に行っているようです。改善しない態度やその回数に根負けしそうになっているのでしょうか。見てみないふりをしないことは、他の生徒への信頼度を維持するためには必要です。そのような行動の裏には、彼女本人が抱える別の事情がある場合があります。「なぜ従えないのか」を一緒に考えてみてはどうでしょう。

★正しいことと間違っただけのことをきちんと示して、生徒が納得できるよう説明することが重要です。そのうえで、この女子生徒のような態度をとり続けるなら、一度話を聞く必要があると思います。その際、副担任又は生徒部の先生にも同席してもらい、女子生徒の本音を聞くようにします。何か不満があるのかもしれませんが。又は何か訴えたいことがあるのかもしれませんが。本音を聞いて、対処法を考えましょう。

★生徒指導は、学校全体の教職員で行うべき話です。一人の先生が注意をしても、他の先生が見逃して何も注意しなければ、その生徒にとっては黙認されたと感じて止めます。全員の先生が廊下をすれ違うたびに注意していれば、その生徒もさすがに面倒でしなくなると思えます。この問題は、この生徒指導の主担当と相談し、管理職を通じて、全員で注意をする学校にすることで、改善すると思います。現在の状況であれば、その学校の教職員にとって、生徒指導の意識が全体的に低いと思います。先生方が生徒指導で連携している状態ほど、いい加減な生徒は怖く感じると思います。ぜひ、学校全体で取り組めるように相談してみてください。まずは、身近な学年の担任たちと連携してみるのも手段だと思います。

【事例 24】

★直感的に、すぐに面談をした方が良いと考えます。各教科の先生方に授業中や提出物等で何か気になることはないか確認してみてください。何か出てくればそれを理由に、何もなければ、全員に対しての短時間の進路面談等と銘打って、とにかくその生徒と話しましょう。自己の中に乖離があるのは、その生徒にとってつらい状況なのです。現時点で対策は打てないかもしれませんが、信頼できる人が一人でも多い状態を作っておきましょう。

★学校では良い子なのに、何か不安や問題を抱えているようです。周囲の生徒から情報を集めてみてください。警察に補導された理由は何だったのでしょうか。単に午後 11 時以降繁華街をふらついていて「深夜徘徊」という理由で補導されたというのなら、それほど心配はありません。「予防的生徒指導」の観点からも、一度、生徒と面談をすることを勧めます。大きな問題がないと思えても、何かあるような気がします。

★家族と会話がな、SNS での心配なつぶやきなど情報があるのですから、確認すべきでしょう。家では甘えたり学校ではよい顔を見せたり、家と学校で見せる顔が違うのはどの生徒にもあることで、程度問題ですね。ですが「補導」は穏やかではありません。心配しているよ、のスタンスを伝えつつ、それとなく事情を確かめてみましょう。何の問題もない生徒などいません。問題ないのが問題です。1 週間に 1 回くらいは全員と話す機会を持ちましょう。

★本人を呼んで話を聞くなど、すぐに対応した方がいいです。その生徒は心に何か重いものを抱えているように思います。重い内容であれば、担任一人に対応しないで、他の先生やスクールカウンセラー等と相談した方が良いでしょう。また、その生徒の状況について、周囲の生徒たちに情報を得ることも大切です。そのまま放置すると、その生徒は行動がエスカレートする可能性が高いので、早い段階で動きましょう。忘れないでほしいことは、最も苦しんでいるのはその生徒本人です。何もしないことは何の解決にもなりません。動きましょう。

【事例 25】

★私自身は年度の最初に、授業は着席では出席にしない、授業に参加（出て）してこそその出席であって、椅子に着席しているだけで寝ているのは出席とはいえない、と宣言します。その生徒の場合ですと私なら、その日は欠席とはしないけれど、次回からは遅刻で途中から参加するなり、欠席するなり、はっきりしてね、と伝えておきます。相談者の場合、学期の途中での出来事ですよね。今更宣言もできませんしね、次年度からは、成績の付け方を説明する際にでも、授業中の態度について付け加えてください。今回の生徒に関しては膝掛けでも掛けて寝かしておけば良いと思いますよ。注目されなくなったら飽きてくるはずですよ。毎度、いびきでもかいて寝てしまうというなら…よほど、疲れているか、前夜遅くまで起きていたか…面談の必要な生徒ですね。叱るためじゃないですよ、そこまで眠い理由を聞くためです。

★経験上男子生徒の方が社会的成長度にばらつきが多いようです。私ならば短く「休み時間は終わりです。すぐに立ち座席につきなさい。LHRを始めます。」と指示して、最後に「床は毎日掃除しているとは言え、衛生的ではないですよ」と毅然と対応すればいいだけです。残りの生徒の雰囲気は崩れたり、担任に対する不信感を持たれたりすることの方が運営にマイナスになりますよ。特別扱いしないことで、本人にも学級全体にも公平感が出ます。

★私も過去に同じ場面に遭遇したことがあります。状況として、悪ふざけをする仲間が集団で群れているようなクラスで起こると思います。私の場合は、最初は優しく「授業が始まりますよ。起きなさい。」と2～3回言いましたが、明らかにわざと起きないので、私は普段出さないような校舎に響くような大声で、「起きろ！！」と言ったところ、その生徒はびっくりして跳び起きました。その声を聞いて、周囲で授業をしていた先生方も駆けつけて来ました。その事態に、その生徒は、さすがに行動を反省したようで、その後は一度もそのような行動はとらなくなりました。その方法が良いとは思いませんが、日頃から先生と生徒の立場は違うことを自覚させる指導をした方が良いと思います。また、生徒との信頼関係も同時に築いてください。

★せっかくクラスが良い雰囲気なのに、少し残念ですね。周りの生徒への影響も考えて、対応は2つです。①徹底的に小学生のように扱って、自尊心をくすぐること。②冷たくあしらって、自立を促すこと。①の場合は、周りの生徒が悪乗りをする場合もありますので、あまりお勧めはできません。②の方が、担任として毅然とした態度で接すると、「今はふざけてはいけない場面だ」と気づくことがあります。①と②を交互にするのも有効でしょう。

【事例 26】

★学校の登校時間は指定されています。指定されている以上その集団に所属しているのならば守る。守ることができるよう指導します。と伝えればよいのでは？遅刻が問題あるかないかの個人的な見解ではなく、学校は学習だけでなく社会通念上、時間を守ることの大切さを身に付けさせる場所でもある。たかだか 10 分を調整できない事実は能力が低いと判断される場合もあり、毎回内容を尋ねられる仲間の時間も奪う行為であると伝えてみては？

★まさにこういう生徒が以前担任したクラスにいました！時間に遅れることそのものが問題なのに、気が付かないふりをする生徒ですね。その時実施した「遅刻をどう考えるか」アンケートでは、「時間は守って当たり前」「迷惑」などまじめな回答が多数を占めました。そう、多くの生徒は遅刻はよくないことと認識しているのです。教員の指導には乗らなくても、周囲の生徒にどう見られているかは気にします。それを利用してみるのも手だと思います。

【事例 27】

★家庭の事情でアルバイト、という入り口からの現状を踏まえると家庭内での親子関係がうまくいっていない背景を想像します。校外の交友関係は、苦しい状況を解消する手段なのでしょう。本人に、自分の人生をきちんと自分で歩む覚悟を持たせる必要があります。いまは交際相手が心の拠り所となっているでしょうから、その相手を否定しないよう気を付けながら、高校で努力して学ぶ力を身に付けて欲しいとまっすぐ伝えてみてください。

★学校以外の楽しくて、キラキラした世界が魅力的に見えるお年頃です。アルバイトがきっかけで、交友関係がひろがったり、ファッションやバイクへの誘惑にはまっていきます。生徒自身も、このままではまずい、とは思いつつも、きっかけがなかったり、時期が来れば…と思っていたりして抜け出すことができないのかもしれません。そこに、恋愛感情が加わるとかなりプライベートな内容になりますね。家庭の事情ではじめたアルバイトのようですが、どんな事情かを聞けるといいですね、経験のある先生方や養護教諭に協力を仰ぐのも方法でしょう。そして、本人と高校卒業後の未来予想図について話し合えるくらいになれるといいですね。具体的で、明るく、楽しみな未来を描くことができれば、そしてその実現に向けて今出来ることを考えられるようになれば、何かが動き始めるはずです。本人だけの力ではどうしようもない、というのなら、必要に応じて、保護者の協力も仰ぎましょう。

★周囲の幼い面の残る男子よりも大人の男性が素敵に見えることがあります。家庭の事情や経済面で苦しいことにコンプレックスを持っていてその反動が服装などに表れていることもあります。ただ交際を反対されると、逆に気持ちが「燃え上がる」ことがあるので、学校生活に無気力な面を心配していることを皮切りに家庭での愚痴などを聞き出してみては？学校にこれ見よがしに車を横付けするような小人物から生徒は守りたいですね。

★社会人と交際することが直ちに悪いわけではありません。しかし、高価な品物を買ってもらったり、学校まで迎えに来てもらったりするなど、およそ高校生の生活とはいえないような様子です。担任は一度生徒から事情を聴いて下さい。この先、この生徒はどのような状況を夢見ているのでしょうか。身に危険が及ぶようなことはないのでしょうか。保護者はこのことを知っているのでしょうか。確認すべきことがたくさんあると思います。

【事例 28】

★中堅校でこのような生徒がいる場合はやや注意が必要です。少なくとも授業の時間は授業に集中することや、提出物は全てきちんと提出することなどの最低限のことはきちんと約束させた方が良いでしょう。また、今の時点から「全部終わったときに燃え尽き症候群にならないように、自分でバランスを取るようにね。」とアドバイスをしてあげましょう。主体性のある生徒だと思うので、ここまで言えばきちんと自分で考えられると思います。

★熱中できることがあるのは良いことですが、燃え尽きてしまっただけでは意味がありません。高校時代に文化祭や部活に熱中した経験は貴重です。その点は評価していることを伝えます。しかし、卒業後の進路について考えることを放棄している現状は改善する必要があります。一度、人生設計についてホームルームで話し合う機会を作ってはいかがでしょうか。多くの生徒は卒業後の進路について考えていると思います。その現実を直接見せるのです。

★今、楽しいことしか興味が持てない生徒ってけっこういます。でも競技実績で進学・就職は難しいですし、万が一、怪我でもしたら……。そんな生徒にも、先の見通しを持つよう根気強く指導しましょう。努力したことが、将来の自分に返ってくるのは部活も勉強も同じ。基礎をしっかりとやらずに将来の自分を作ることはできないのです。生徒もわかっていると思います。せめて興味のある科目からでも手を付けるよう、折を見て声をかけ続けましょう。

★生徒は、将来のことから現実逃避したい気持ちがあるように思います。授業中に寝ていることはその都度注意し、続くようなら、本人や保護者と授業態度について三者面談を早めに行うべきです。また、場合によっては、カウンセラーを活用した方がいい状態のように思えます。怠惰な気持ちが勝っているのかはわかりませんが、とにかく、このままでは人から応援されない文化祭実行委員になる可能性が高いです。学生の本分は勉強ですので、様々な先生方からその生徒に声掛けをしていただいた方がよいと思います。担任にできることとして、このままいった場合の将来のシミュレーションをしてみることで、スイッチが入る切っ掛けになるかもしれません。私自身も同様な生徒を持ち、言うことを聞かなかった生徒が、大学進学を指定校推薦でしたいと考えたときに、成績が推薦要件を満たせず、かなり後悔していました。その話をその後の生徒たちにすると、同様の生徒は減少したように思います。

【事例 29】

★「教室に行けないようになっていくことが心配」と養護教諭に言われてしまったのですね。保健室がその生徒にとって居心地が良いのでしょうか？生徒にとって居心地の良い場所はH R教室とは限りません。部活動の部室であったり、生徒会室であったり…といろいろです。保健室に必要時間いて、体調が回復しなければ下校させ、回復したら教室に返す、養護教諭と連絡を取れるシステムを作りましょう。それは、特定の生徒やH Rに限らず、どの生徒、H Rにも共通する対応策のはずです。その上で、保健室の方が居心地が良いと思えるほどに、教室にいるのがつらい原因が気になります。ぜひ、直接本人に聞いてみましょう。

★生徒の行動には原因があることが多いようです。特に大人と話している方が楽だという生徒は何か抱えている場合が多いと感じます。大きなトラブルはないとのことですが、大人から見て些細なことで生徒の関係がこじれることがあります。静かな場所や話を聞いてくれる人を求めているのは、教室や学校が「しんどい」のではないのでしょうか？保健室の居心地がいい理由から教室の居心地のよくない理由について話してもらうのはどうでしょう。

★授業が空いている先生方で保健室の見回りをしてみてはいかがでしょうか。そうするとサボりの生徒は割と教室に戻ります。また、休み時間に担任がその生徒から話を聞いて不満を探ってみてはどうでしょう。生徒が何か問題を抱えているようであれば、カウンセラーと相談する時間を設定するなど、保健室へ行く癖がつく前に手を打ちましょう。

★本人がどのような理由で教室にいられないのか、聞く必要がありますね。いずれにせよ、この生徒にとって教室が居場所になるように働きかける必要があります。多少強引な手段ではありますが、養護教諭から「今度来るときは、一人で来ないで複数の人（同じクラスの人でもそうでなくても）とおいで」などと言ってもらいましょう。保健室だけの人間関係にならないように、連れてきた仲間が教室に引き戻してくれるような工夫が必要ですね。

【事例 30】

★本人がノリで生きているようなので、真面目な形で指導しても聞かないと思います。気持ちはわかりますが、まずは「授業中にうるさくするのは他の人の迷惑だからやめること」など、具体的な指示を出しましょう。そのうえで、普段のHRや行事ごとに、目標設定、振り返り及び生徒相互のフィードバックを繰り返し実施してみてください。メタ認知を少しずつ向上させていくことで、変化が起こるかもしれません。

★「ノリ」で進めて良いことと、進めていけないことがあります。また、「ノリ」で良い方向に進む場合と、そうでない場合があります。授業中にうるさくすることは悪いことです。逆に「ノリ」で授業を真剣に受けるよう、方向づけすることが可能です。「あなたがみんなの様子を見ながら、良い方向に向かわせてくれれば、良い結果が得られると思います。そうすることができれば、あなたの評価はぐっと高くなります。」と伝えてみてください。

★ノリで騒ぐタイプの生徒ですね。行事のリーダーには向いていても、学習のリーダーには不向きな生徒かもしれません。多方面に活躍できる生徒がリーダーに適任という思い込みはないでしょうか。人前ではっきりした物言いができなくても、授業をしっかり受け、友達の質問に答えてあげる物静かなタイプの生徒がそこにいることで、テスト前の放課後自主学習が成立したこともあります。いろいろな生徒の隠れた可能性を引き出してあげましょう。

【事例 31】

★境界線上の生徒のような気がします。私なら、まずは、定期的に来てくださるカウンセラーに対応の仕方について教えていただきます。頭ごなしの指導や「わかるはず」は、その生徒には通用しない気がするのです。「はず」「べき」が自分の物言いに、繰り返されたら要注意、私は何かの思い込みにとらわれてはいないかを自問自答します。

★他の生徒とトラブルになっている以上、本人の特性として扱うわけにはいかない状況です。①安心と安全について②他者が感じたことに向き合うことを高校生活で学ばせたいですね。自分の行為が次に何につながるのかを判断することが苦手な生徒です。友達ならばすべて許してくれるわけではない。「悪いか悪くないか」ではなく、友達の感情や安心・安全を脅かす行為はしないことを判断させるため被害者と向き合わせてはいかがでしょう。

★自分の行動の責任は自分で負える様になる。大人になる前に身につけて欲しいことの一つです。自分ではなく相手がどう感じたか、これがわからなければ人間関係は築けません。「〇〇くんが怒っているんだけど、どうしてだと思う?」「どうすればよかった?」と相手の立場に立って考えさせるのです。もうわかっているのかもしれませんが。人づきあいが下手な生徒の気持ちは汲んであげて、あとは自分で答えを出せるよう背中を押してあげましょう。

★生徒が遊びの中の悪ふざけで、相手を叩いたとき、その生徒は軽く叩いたつもりであっても、相手にとっては違います。その生徒に伝えることとして、例えば、「小さな石を拾って相手に投げたとしても、大したことはないと思うかもしれない。でも、相手が小さなカエルだったら、人間にとって小石でも、カエルにとっては大きな岩に見え、命を奪われるような恐怖を感じるんだよ。相手の立場で考えてごらん。」と、話せば分かりやすいかもしれません。対応の仕方については、経験豊富なベテランの先生に相談してみても良いのでは無いでしょうか、ベテランの先生方はこのようなケースの生徒の相手をしたことがきっとあると思います。

【事例 32】

★人間関係を壊したくなくて、言いたいことが言えない、少なからず誰にでもあることです。この生徒の場合は、実は嫌だったという思いの積み重ねが文化祭出演を勧められて、頑張りの糸が切れてしまったようですね。ご存じのように「いじめ」は、いじめられていると訴えれば、そこで成立します。他の2人にそのつもりが無かったと言っても認められることはありません。この場合は、本人に「わざと笑いものになって」いたという自覚もあるようですね。他の2人にしても、全く意識していなかったら彼らも傷つきますし、自分達の感情の負の部分に気付くことになるかもしれません。できれば、両者が本音を言い合って、謝り、対等な関係で友人関係を修復出来れば良いですね。両者への指導が必要な事案です。1人で抱えこまないようにしましょう。

★高校生になると通学範囲も広くなり同じ中学の生徒も少なく、新たな人間関係作りに大きなストレスを抱える生徒がいます。自身の気持ちを表現できず我慢してきた生徒が初めて自分で「いやだ」という気持ちを表現できるようになったとも考えられます。これまで気づけなかったことを悔やむより、どうすることがこの三人にとってよいのかを考えましょう。まずは事実を丁寧に整理して原因を取り除くため本人の気持ちに寄り添いましょう。

★他の二人の生徒から話を聞きます。学校を休んだ理由に心当たりがないかどうか確認してください。二人は、友達が学校を休み始めた理由がわからないかもしれません。その時は、担任が代弁して、生徒の本心について説明してあげてください。仲良しグループですので、きっと理解して、関係改善のために協力してくれると思います。もし、仲良しグループ内で、関係が悪化したのであれば、他の対策を講じる必要があります。

★いじられキャラでいる限り仲間うちでの存在感は保てますが、嫌だと言えなくて苦しむ子が多いようです。先生には「嫌だった」とはっきり言えたのなら、自分で一歩踏み出したわけです。それを認めてあげて、次は素の自分でいられる場所の確保を考えましょう。他クラスの友人や保健室、学校外のサークルなどでもいいと思います。状況がすぐに好転することはないと思いますが、焦らずに嫌と言えるキャラになれるよう、寄り添ってあげましょう。

【事例 33】

★この2人が口をきかなくなった時点で、いじめが発生した瞬間だと考えます。一番怖いのは、この生徒が学校生活に支障をきたすことです。まずは部活の顧問の先生と管理職に相談しましょう。2人の生徒が掃除当番が変わってもらおう、と思うこと自体が歪だと感じます。遅かれ早かれ、何か似たような問題が起こったのではないかと思いますので、先生自身もご自分を責めないようにしてくださいね。

★3人の生徒とグループ面談を行います。担任から係活動の重要性について説明してあげてください。それでも大会が近い時期には、当番を代わってもらいたいというのなら、大会がない時期には、逆に変わって当番をするという方法もあります。誰が聞いても「なるほど」と思える解決策を、話し合いつて考えだしてください。社会生活でも、「事情があって交代する」場面はあります。皆が納得する方法を話し合って決めましょう。

★その件は、部活動顧問は知っていますか。まともな顧問であれば、サボった生徒たちを指導するはずです。顧問が教育的な視点で物事を考える方であれば、よく相談をしてください。また、「学校のことができてはじめて部活動を行う」意識を学校全体に定着させることが大事です。まずは、身近なホームルームでその話をしてはいかがでしょうか。

【事例 34】

★部活動でも頑張れるくらいの生徒ですと、行動力も有り、責任感があって、アルバイト先で重宝され、当初の予定より労働時間が増えて学業との両立が厳しくなってきます。さらには、保護者ご自身が、スマホ代や弁当代を生徒自身が支払うことで、家計への負担の軽減を期待している場合もあります。私自身は、アルバイトに関しては、はじめるまでの指導が勝負！と思っています。海外と違って、日本では、学生時代のアルバイトの経験が卒業後の就職と結びつきにくい、という報告があります。雇用する側も、アルバイトに任せる仕事は、そこで完結させるばかりで、その業種について生徒が興味関心をもつきっかけになりにくいというのです。さらには、アルバイトをしている生徒は、していない生徒より進学先への上昇志向が低い、といった報告もあります。就労の現場を目にしたことで、自らの将来像を「こんなものか」と諦観するからとの分析もあります。生徒本人も、学業との両立の難しさに気付き初めているはずです。保護者も含めて、卒業後の自分の希望の進路に進むために、今どうするのが良いかを、一緒に考えてみましょう。

★バイトに入れ込むのは、責任感が強い生徒が多いです。頼りにされていると感じ、大人の言いなりになってしまいます。学校に居場所のない生徒がはまりやすいですね。でも子どもの学校生活を尊重しない職場が、良い労働環境と言えるでしょうか？そもそも労基法が守られているかどうか確かめ、生徒にも理解を促しましょう。深夜まで働かされていないか？休憩時間はあるか？など、具体的に問いかけ適切な働き方について考えさせましょう。

★アルバイトは、正社員ではありませんので、そこまでの責任を負わせる状況は変です。学業と両立できない場合は、辞めるべきです。生徒と話をして改善が望めないときは、保護者を通じて、アルバイト先に話をしてもらった方がいいです。学業に支障が出ている状況です。そのアルバイト先の責任者に放課後の時間を伝えていけば、普通はそのようなことは無いと思います。もし、進級や卒業ができない状況になったときに、アルバイト先は責任をとれないと思いますので・・・。

【事例 35】

★中学時代までは、とにかく時間をかけて反復することで他者よりも高い評価を得てきたのでしょう。これがこの生徒にとっての成功法則であり、結果が出せていたので、クリアできないことが出てきたことで否定されているように感じているのでしょう。内容が高度になってくると、ただの努力ではうまくいかなくなるものです。「戦略を練る」というひと手間を追加すれば、きっと結果が出るよ、と勇気づけてあげてください。

★極度の負けず嫌いか一年生の段階から推薦を意識しているのでしょうか？努力をしているのは当たり前だと考えているので「目標を持って努力している姿勢」を褒められてもうれしくはなく、逆に結果が伴わなかったときには不完全な自分を褒める嫌悪や自身の成長の限界を感じさせられて不快になることがあります。負けず嫌いを生かして、「この設問や単元抑えていないと成績は伸びないな」など内容に目を向けさせてはいかがでしょう？

★特に進学校に入学した生徒に多く見られる現象です。中学校時代は勉強も運動もいつも学年で1～2位の成績だった生徒ばかりが集まる高校ですから、当然、1位もいれば40位もいます。それを受け入れたくないのです。一度、生徒に現実について理解できるよう説明する必要があります。また、多様な考え方があることにも気づかせます。少しずつ理解して、自分を受け入れられるようになるでしょう。

★考え方に偏りがあることから発達障害のグレーゾーンの可能性も考えられます。しかし、診断されていない生徒には、こちらが指導を工夫する必要があります。今の自分を受け入れさせること、目標を高く設定させすぎないこと、失敗しても「そういうこともある」と思わせることです。挫折経験がないまま大人になるのではなく、スモールステップでできないこともあると理解させましょう。自分の理想像を大きくさせすぎないことが必要です。

【事例 36】

★生徒達は柔軟で、課題のある生徒とも上手に付き合い、受け入れているようですね。とても立派な、良いHRに育てましたね。それでも、先生ご自身への支援がすぐにでも必要な気がします。まずは、学年主任、養護教諭、管理職に助けを求めましょう。その上で保護者に相談してみましょう。「一つのことに集中すると…チャイムが鳴ったことに気づかずに、一人になった教室で数学の問題の解法を考えている」ような時にはどうしたらよいのか？「気に入らないことがあると…男子トイレに籠ってしまう」時にはどうすればよいのか？保護者は最高の支援者のはずです。

★つきっきりは無理ですので、打ち解けている仲間の手も借り、つかず離れずに見守っていきましょう。また専門家不在でも、養護教諭や教育委員会など公的機関との連携は可能です。発達障害のある子は、自分を客観視することが苦手です。社会に出ることを想定し「何をしたいのか、何ができて、何ができないのか」を把握しましょう。得意なことがあるようです。肯定的に自己理解を深め、特性にあった将来像を描けるよう、働きかけていきましょう。

★重いケースを担任一人で抱えないでください。周りの教職員に相談しサポートしてもらうべきです。それぞれ空いた先生が授業中にトイレの見回りをするとよいかもしれません。生徒本人には、休み時間にトイレに行かせる習慣をつけるべきです。前の時間の授業担当者が、授業後に「お手洗いは休み時間に行きましょう。」と声かけをするのも多少は効果があると思います。

★診断されているのなら、医療機関との連携を第一に考えましょう。この生徒のこだわりが学校生活にプラスになる方法を、主治医と学校と保護者とで話し合ってはどのようなか。個人情報保護の観点から、医療機関から情報を得られない場合は、保護者から説明してもらうなり、書面で照会するなりするといいです。学校としての支援体制を整えることも必要ですが、この生徒にとって特別な支援をする必要が急務ですので、まずは保護者の協力を仰いではいかがでしょうか。

【事例 37】

★リストカットや過呼吸は、基本的には「構って欲しい！」という気持ちが行動に現れたものだと思います。大切なのは、こういった行動をしなくてもしっかり見てもらえているという気持ちになってもらうことです。こまめに声を掛けたり、リストカットを我慢していることを褒めたりしてあげることで、自傷行為に至らなくても養護教諭の助力は得られたようですね。一刻も早く、学年主任、管理職に相談して、担任としてリストカットの場面に遭遇したらどのように対処すればよいのか？また、リストカットしないためには、担任として何ができるのか？さらには、リストカットする場面に居合わせた他の生徒達には、どう対応したら良いのか？等を尋ねましょう。

★リストカットは現実から逃避するために行う行動です。今日はリストカットを思いとどまったというのですから、自分に打ち勝ったと言えます。その点を褒めてあげてください。今後、またリストカットをしたくなったら、担任又は養護教諭のところに来て、思いをぶつけて欲しいと伝えます。きっと、改善するでしょう。時間がかかるとはと思いますが、粘り強く対処してください。

★おそらく、その生徒はリストカットすることに何らかの安心感があるのだと思われます。リストカットですっきりする状況が癖になると、同じことを繰り返し始めると思います。早めにカウンセラーに連絡をとり、生徒と話をしてもらうことをお勧めします。リストカットをするようになった原因は、周りの皆が心配して注目してくれるのが癖になったのかはわかりませんが、とにかく、担任だけで対処するのではなく、周りの先生やカウンセラーと早めに相談してください。

【事例 38】

★生徒が心を開くのは、担任でなければならないなんてことはありません。人間同士ですから相性もありますし、話し相手は養護教諭でも部活の顧問でも、副担の先生でも良いのです。そして、今の高校を卒業するばかりがベストの選択とはいえないでしょう。ただ、高卒認定試験を取ったり、単位制の学校に編入したり、中卒で就職したり、アルバイトで日々のたずきを得るよりは、一番楽で安全な方法が、卒業することであると思います。生徒自身が調べたり問い合わせたり、時には経験者に話を聞いたりして、そのことを理解してくれるといいですね。生徒に反抗的な態度を取られたお困りのようですが、私自身は、一所懸命話をすると「圧が嫌っ！」と言われて落ち込みます。

★こまめに面談をして事実を伝えることは大切なことです。高校三年生まで進級して、あと少しで卒業が見えているところで、「もったいない」「学校に来てほしい」という気持ちがあふれます。母親と確執が原因のようですね。本人にとってこんな状況では勉強どころではない。学校に来いと言われてもできない自身にもいらだっているのでしょう。卒業資格を得て、卒業後に独立することを視野に入れて話をしてみてもいいでしょうか。

★とにかく、このケースでは保護者に「学校でできることには限りがあり、家庭に協力してもらわないと卒業できなくなる。」ことは伝えるべきです。もし、生徒本人と話をして、学校が合わないのが欠席の原因であれば、転学可能な通信制の学校を紹介するのがその生徒のために良いかもしれません。保護者には卒業をさせたい担任の気持ちはしっかり伝えて学校に出す協力はしてもらってよいですが、おそらく生徒は保護者の言うことを聞かなくなっていると思います。担任や保護者が声掛けをしても自暴自棄な状況が改善されないのであれば、担任にとっても大きな負担になると思いますので、転学をすすめる方がよいと思います。ただ、心配してほしいがためにそのような態度をとっているのであれば、カウンセリングをうけさせるのがよいと思います。

★欠時数を言われても理解できないことも多いので、メモで渡したり、本人に書かせたりして、感情で判断させない工夫が必要です。本人が病的な理由で登校を拒否したり、妄想が激しくなっていたりする場合は、スクールカウンセラーと相談して、医療機関につなぐ方法を考えましょう。また、母親が協力者になってくれそうもないので、父親やこの生徒のことを第三者的な立場で判断できる人がいるか、丁寧にヒアリングする必要があります。

【事例 39】

★「起業」という夢を持っている生徒、頼もしいです。前向きな考えですので、応援する気持ちで担任は生徒に接してあげてください。しかし、予想する通り「起業」できるわけではありません。担任としては、起業に失敗した場合どうするか聞いてください。あらゆる可能性について対応策を考えさせるのです。生徒がここまで話をしてくれたのですから、もう少し詳しく、つつこんで聞いてみると、見通しが立つと思います。

★指導というスタンスではなく、起業プランを聞いてみたいですね。素人目にも甘いプランなら、はっきり伝えてやるべきです。そもそもその起業は自立の手段なのでしょうか？ 起業の費用や生活費も自分で賄えるのなら、「親にも内緒」でいいかもしれません。無理なら早急に親に相談しなければなりません。起業そのものが問題なのではなく、親に相談なく、自分のやりたいことだけ実現することはできない年齢なのだ、と気づかせてあげましょう。

★この内容は時期がくれば保護者と話をすることになります。普通に考えると、起業するには、資金の元手や信頼のある取引先が普通は要ります。もちろん社会的な信用がないと難しいです。その辺りは考えているのでしょうか。その生徒には、「まずは就職をして世の中に出てから社会のシステムを勉強してから顧客を増やしたうえで起業してはどうか。」と話をしてみてはいかがでしょう。それでも変える意思がなければ、そのときに「保護者に自身の意思を伝え納得させることが出来なければ、就職か進学をなさい。」と伝えるとよいのではないのでしょうか。

★この生徒が起業するプランを説明したくないと言うのなら、経済状況、社会状況、倒産件数、資金の借り方・返済ローン、未成年者の社会的信頼など現実的な情報を与えてから判断させましょう。ポジティブな情報は、生徒自身が収集しているので、必要以上に膨らませる必要はありません。また、大学在学中に起業した人の本なども有効かもしれません。今ではなくもう少し先に実現させる目標を立てさせてはどうでしょうか。

【事例 40】

★具体的な相談内容はどんなことでしょうか、本人に聞いてみましょう。周りから冷やかされたことについての相談でしたら、その生徒達に話して聞かせましょう。誰にでも、どんな家庭にでも、独特の習慣やお作法はあるものです。たまたまプライベートを知りえたからといって、それを話題にその生徒を冷やかすというのはいかがなものでしょうか。回りの生徒にしてみれば、スマホについての話題だから共有しても良いと気楽に取り上げたのですが、自分達の考えを誰かに押しつけたり、自分達と異なる考えだからと笑いものにして他人を尊重できない人は、自分も大切にできないように思います。

★スマホを持っているのに、SNS もやらず連絡先交換もしないことを周りの生徒から冷やかされたことを嫌がって担任に相談したのでしょうか？まずはその生徒本人が「どうしたいのか」を聞いてみたいですね。束縛ともとれる家庭のルールに違和感を持ったのか？自身もSNSをやった方がよいと思っているのか？私はSNSやスマホの使い方のパンフレットでも渡して話をして正しい使い方をレクチャーしてあげるだけでよいと思います。

★親の言うことに素直に従っていたら、それが当たり前ではないと気付いたのですね。気づいた時がスタートライン。いずれは社会に出るわけですから、まずは精神的な自立を目指すよう、アドバイスしてはいかがでしょう。緩やかな方法をとるなら、何かを自分の意志で決定してから事後報告をするやり方がおすすめです。その都度、なぜそういう決断に至ったのかをきちんと説明することで、親にも少しずつ自立を理解してもらえようになりますよ。

★高校生は自立をしていく準備の時期で、自身の行動に責任を持たせていく時期だと思います。この件では、保護者が子供を管理する状況で、子供の自由度が低いように思います。そのような現状では、家庭が原因で友人関係の構築が難しいように思います。生徒自身が相談していることを考えると、生徒自身が家庭と他の生徒から言われたことなど相談し、ある程度は自由な部分を与えて、自己判断し、自立の準備をするべく自身の要望をすべきだと思います。また、その後に同様な相談があるようでしたら、三者面談等で家庭の件について話をしても良いと思います。